

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

<p>学校名</p>	<p>基山町立基山小学校</p>		
<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<p>・基山町小中3校で「小中一貫教育」を推進するために9部会を設置し、研究や実践をしてきた。3校共通の目標である「きたえ やりぬき まなびあう」の達成のために、「宿題をしてくる」や「進んであいさつをする」、「歩いて登下校する」等の達成行動目標を掲げ、各部会から合言葉の「す・み・そ・あ・じ」など、具体的に効果的な手立てが提案され、組織的な取り組みができた。また、学力向上に向けて「スキルタイム」や「家庭学習がんばり週間」等を継続して実施し、基礎学力の定着、家庭学習の習慣化に取り組んだ。今後も「継続と徹底」を意識して学力向上を実現したい。 ・9部会については、今年度、リモートでの分散会議を1回行っただけであったので、次年度は開催の仕方を吟味しながら、各専門部の機能強化と専門性を高めていく。 ・学年主任や各主任を核とした組織的な指導体制をさらに強化し、ミドルリーダーの育成と若手支援を継続して行い、実践的な研究を深めていく。 ・特別支援教育では、今年度、エリアリーダーによる研修会を多く行ってもらった。次年度も、継続した研修を維持しつつ、特別な支援を必要とする児童に対する支援体制や支援の在り方について見直ししながら、指導者及び特別支援学級補助員を含む全職員が児童理解に努め、スキルアップしていく。</p>		
<p>2 学校教育目標</p>	<p>きたえ やりぬき まなびあう ～心も体も元気で前向き、未来を拓く基山っ子の育成～</p>		
<p>3 本年度の重点目標</p>	<p>・基山中校区の小中一貫教育では、9つの専門部を組織改編し、校内組織と更に関連付ける。これにより、これまでの取組の精査を図るとともに、各専門部の機能強化と専門性を高めていく。 ・特別な支援を必要とする児童に対する支援体制や支援の在り方について見直ししながら、指導者及び特別支援学級補助員を含む全職員が児童理解に努め、スキルアップしていく。 ・GIGAスクール構想実施1年目として、タブレット端末の充実した活用を目指す。一人一台使用する端末を学校・家庭で有効活用し、児童の学力向上を図る。</p>		
<p>4 重点取組内容・成果指標</p>			
<p>(1) 共通評価項目</p>			
<p>重点取組</p>			
<p>評価項目</p>	<p>取組内容</p>	<p>成果指標 (数値目標)</p>	<p>具体的取組</p>
<p>●学力の向上</p>	<p>●全職員による共通理解と共通実践 ○読書の習慣化と多読の推進</p>	<p>●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○学校図書館の年間貸し出し冊数を、一人平均70冊以上にする。</p>	<p>・学習状況調査の結果等から、児童に身に付けさせるべき力を分析し、その力の育成を図るために、全職員で「授業づくりのステップ1・2・3」を参考に指導改善を行う。 ・基山中校区三校合同での「家庭学習がんばり週間」の実施を通して、各学年の目標学習時間の達成を目指す。また、自学ノートを活用し、学習内容の質の向上も目指す。 ・ファミリー読書(親子読書運動)を推進・啓発し、読書の習慣化に取り組む。 ・図書館祭りを実施したり、多読賞を設けたりして、図書館利用について児童の関心を高める。 ・図書館の貸し出しを常に2冊までできるようにし、多読を推奨する。</p>
<p>●心の教育</p>	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動</p>	<p>○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ●いじめの未然防止のためのアンケート等を実施するとともに教育相談活動を充実させる(組織対応ができていないと回答した教員80%以上)。 ・「スクールカウンセリングのお知らせ」を月1回発行し、活用を推進する。4種/1日の相談時間は、児童観察ではなく、カウンセリングの時間として有効活用できるようにする。 ◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童80%以上。</p>	<p>・全ての学級が、授業参観等を活用して、「ふれあい道徳」を実施する。 ・一人一人がよさを発揮し、互いのよさを認め合える授業や学級経営を行う。 ・集会や縦割り活動等で自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。 ・Hp-QUの活用と、いじめに関するアンケートを年間2回実施することで、児童の実態を把握し、結果の分析を基に、学年、学級経営に生かす。 ・SC、SSWの活用、地域、専門機関との連携強化を図り、生徒指導や教育相談体制の整備を行う。 ・「ふるさと基山の歴史」や「佐賀語り」「佐賀祭り」等を活用した授業に取り組む。 ・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や表現活動を実施する。 ・小中の系統性をもたせた「きやま学」を実践し、三校共通のカリキュラムを作成する。 ・キャリアパスポートの活用を推進する。</p>
<p>●健康・体づくり</p>	<p>④「安全に関する資質・能力の育成」 ○食育教育の充実</p>	<p>④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○年間の給食残菜率を5%以下にする。</p>	<p>・交通安全教室や地区児童会、登校班長会等を通して、児童の安全意識を高める。 ・町の住民課(くらしの安心・安全係)や各区の交通指導員、PTA地区役員と連携をしながら、交通安全教室、登校班編成、登下校見守り、地区別懇談会等を実践する。これらを通して児童の安全意識の向上を目指す。 ・三校合同の専門部会(10部会)に、本年度より「防災・安全」部会を新設し、小中一貫の取組を計画・実践する。 ・栄養教諭と食育教育担当職員が中心となり、学級担任との連携した食育指導を展開する。</p>
<p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>	<p>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</p>	<p>・会議や連絡会は、資料をデータ化し、職員間共有フォルダに保存しておく。資料を事前に確認できるようにしておくことにより、話し合いに係る時間短縮を図る。 ・金曜日を定時退勤推進日として、17:30施錠、その他勤務日においても19:00を上限とする。 ・学校閉庁日を設定する。 ・衛生委員会を通して勤務実態の共有を図り、業務改善意識を図る。</p>
<p>(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目</p>			
<p>重点取組</p>			
<p>評価項目</p>	<p>重点取組内容</p>	<p>成果指標 (数値目標)</p>	<p>具体的取組</p>
<p>○特別支援教育</p>	<p>○特別支援教育の充実</p>	<p>○年間3回ほど特別支援教育に係る研修をし、職員間の共通理解と協力のもと、校内支援体制を確立する。 ○年間2回ほど情報交換の場を設け、支援が必要な児童の実態を把握し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用する。</p>	<p>・教職員を対象に特別支援教育に係る研修会を実施する。また、保護者を対象にふれあい学級や学びの教室の運営に係る説明会を実施する。 ・講師を招聘し、「学習環境」「授業」「人的環境」等のユニバーサルデザインについて研修し、特別支援教育の推進を図る。 ・教職員を対象に「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の意義と作成・活用の仕方について、研修を行う。 ・関係機関と連携し、保護者・児童の教育的ニーズや願いを把握する。それを踏まえた対応の仕方と評価について、協議会などで職員間の共通理解を図る。</p>
<p>○基本的な生活習慣の定着</p>	<p>○あいさつ、返事、廊下歩行、はきもの揃えの定着</p>	<p>○「す・み・そ・あ・じ」を合言葉にして、三校共通で取り組む。整理整頓、はきもの揃え、無言掃除、挨拶、返事、正しい廊下歩行、時間を考えた行動の達成率が児童80%以上になるようにする。</p>	<p>・月毎の「生活目標」を「す・み・そ・あ・じ」に焦点化し、毎学期繰り返して取り組むことで指導の徹底を図る。 ・「基山っ子」(学校だより)や全校集会等で児童の頑張りを肯定的に評価し、あいさつ、時間の意識、はきもの揃えを定着させる。</p>
<p>○GIGAスクール構想におけるICT利活用</p>	<p>○電子黒板やデジタル教科書を活用した授業の充実及び一人一台端末の有効活用</p>	<p>○各学級、一人一台端末の導入を4月中に行う。朝の時間に行うスキルタイムでは、学習ソフトを用い、タブレットドリルの実施を年間計画に組み入れ、実践する。</p>	<p>・GIGAスクール構想実施に伴う端末導入に係る「使用上のルール」の三校共有 ・児童・生徒への使用方法の指導及び使用するシステムの構築 ・小中三校の各ICT部会設備現状確認、使用法の共有 ・一人一台端末の活用方法に関する職員研修の計画・実施</p>
<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>			
<p>5 総合評価・ 次年度への展望</p>	<p>・ ・ ・</p>		